

ごあいさつ

代表：岩村和彦

会員の皆様、昨年4月より代表を仰せつかりました岩村です。

今年もこうしてニュースレターをお届けする時季となりましたが、悲しい出来事もお知らせしなければなりません。事務局メンバーとして一緒に活動してきた同志、鈴木和夫さんを十勝連峰の雪崩事故で失いました。いかつい体に優しい心、的確な発言、懸命に活動する頼もしい存在は当会に欠かすことのできないものでした。痛恨の極みです。右下写真の一番前が鈴木和夫さんです。彼の情熱と意思を受け継ぎ、トイレ問題解決のために今後も活動して参ります。

第9回山のトイレフォーラムが3月8日(土)札幌エルフラザで開催決定！ 多数の参加をお待ちしています！

◆活動報告

1. 第8回フォーラムの開催 (2007. 3. 10)

第8回山のトイレフォーラムが札幌市「かでる27」で開催され、64名の参加者を迎えて行われました。

テーマは「山小屋トイレの維持管理について考える」です。

講演者は下記の2名でした。

- ・伊藤太一氏（筑波大学助教授）「富士山および南アルプス南部における施設整備とその費用負担」
- ・穂刈康治氏（槍ヶ岳観光株式会社代表）「山のトイレとエコトイレ」

伊藤太一氏は、南アルプス南部では県や市の設置したトイレの維持管理を東海フォレストに委託、全国で唯一システムとして山岳レクリエーションを民間企業が管理していること等を話され、穂刈康治氏は北アルプスの槍ヶ岳山荘などの大きな山小屋を経営しており、環境配慮型山岳トイレ導入の先駆者です。これらの環境配慮型トイレの技術的な説明、導入の苦労話、さらに尿尿分離型便器の特徴とメリットを分かりやすく説明され、私たちの今後の活動に大いに役立つ講演でした。

講演のあと、黒岳バイオトイレの現状、利尻山のトイレ対策、幌尻岳のトイレ対策について報告があり、最後に美瑛富士避難小屋の最適なトイレと維持管理方法について白熱した議論をし、長時間に亘ったフォーラムは無事終了することができました。

2. パブリックコメント提出 (2007. 3. 27)

環境省の大雪山国立公園管理計画の改訂に当たり、当会からパブリックコメントを提出しました。

特に美瑛富士避難小屋の部分については「...公衆トイレについては、工法及び維持管理等を含めた環境条件が整った上で検討するものとする」を「トイレの位置、構造、処理方法、維持管理の体制等について今後検討を行う」に修正するよう提起、採用されました。細かな部分ですが、トイレ問題解決に向けては大きな進歩でした。

3. 大雪トイレ注意掲示板設置 (2007. 7. 15)

大雪山国立公園の避難小屋トイレ4箇所、便所にゴミを捨てないように注意喚起する掲示板を設置しました。

トイレに入る前に分かるようにトイレのドアと、入ったからも分かるようにトイレの中にも取り付けました。

上ホロ避難小屋は日帰り、白雲岳、忠別岳、ヒサゴ沼避難小屋は一泊、参加者は全部で18名でした。

また、なかなか出来ないことですが、山岳トイレを利用する時は、ポリ袋を持って入り、トイレ紙を持ち帰るようにしましょう。トイレ汲取期間を延ばすことができます。



第8回山トイレフォーラム模様



上ホロ避難小屋トイレでの注意掲示板取付

4. 2007山のトイレデー実施 (2007.9.2)

2007全道一斉山のトイレデーは、北海道の16箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を行いました。

参加者は約130名。マナー袋、マナーガイドを約1,000部を配布することができました。当会の活動目的の一つである「トイレ紙は持ち帰りましょう」を今回のトイレデーの主活動とし、登山者に呼びかけました。

当会発足してから8年が経過しましたが、「トイレ紙は持ち帰っているよ」「携帯トイレも持っていますよ」との登山者が多くなっていることを実感したトイレデーでした。

また、「美瑛富士のトイレはいつ設置するの?」とのご意見もありました。活動に参加して頂いた皆様、お疲れ様でした。来年も宜しくお願いします。



旭岳姿見の池付近でのトイレデー (2007.9.2)

★ペナントを作成しました!



山トイレの活動の輪を広げるため、ザックに付るペナントを作りました。H20年1月に会員全員に配布する予定です。

★会員を募集しています

8月に会員に関する規約の改正をしました。会員の対象は個人のみとし登録制にしました。年会費は1,000円です。

また、会計年度を1月1日~12月31日に変更しました。

会員は随時募集しています。申込は事務局までご連絡願います。

5. 幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに参加

(主催: 日高山脈ファンクラブ) (2007.9.17)

2005年から毎年実施している日高山脈ファンクラブ(代表: 樋口和生氏)主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに会員3名が最終日にのみ参加してきました。今年から水力発電によるバイオトイレ1基が本格運用されました。しかし、それだけでは処理できないため簡易トイレ2基が設置されており、それが満杯になったためです。

3日間で参加者は25名。増水した額平川をスクラムを組み249kgを担ぎ下ろしました。

日高ファンクラブと地域の皆様の山岳環境改善の活動に敬意を表します。



幌尻山荘前で (2007.9.17)

6. 美瑛富士調査登山・環境省と意見交換 (2007.10.5) (2007.10.17)

美瑛富士トイレ問題の解決に向け、環境省職員3名、美瑛町職員2名、当会からは小枝副代表と愛甲事務局長の合計7名で現地視察の調査登山を実施、糞便やティッシュを回収してきました。

その後、札幌市環境プラザで環境省職員3名と当会会員7名で意見交換を行いました。特にトイレが設置された場合の維持管理体制について議論、今後も意見交換の場を持ち、話し合いを続けることとしました。

7. 山トイレ福岡フォーラム (2007.6.27)

福岡で初めて開催された「山のトイレを考えるフォーラム in 福岡2007」に仲俣が招待され、北海道の山のトイレ問題の現状と課題について講演してきました。

約180名の参加者で、北海道と違った山岳環境の中でトイレ問題の悩みも深刻でした。会場からの意見も活発で熱気に溢れたフォーラムでした。詳細は当会ホームページに掲載しています。